

I nterview

鷹匠 澤田政弘さん

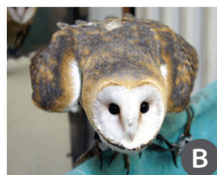
江戸の昔、小平市域は尾張徳川家の鷹狩に供する鷹場でした。そのため鷹の街道、鷹の台といった地名が今も残っています。鷹狩は猛禽類の狩猟本能を利用して、熟練した鷹匠（たかじょう）が訓練した鷹を使って、鳥類や鴨、ウサギなどを捕獲させる狩猟法。澤田政弘さん（74歳）は狩場にでる現役鷹匠として、国内最古参の方です。

澤田さんは鷹匠にして、都内でも珍しい猛禽類を専門に扱う「フジペット」のオーナー。小平団地に隣接する商店街で40年にわたり店を続けています。小平団地に子どもたちが溢れていた最初の頃は、小鳥を主にハムスターや金魚、カブトムシも扱うペットショップでしたが、時代の流れとともに店の身も変わってきました。店奥の小屋の

鷹匠への憧れは中学生の時から

中には、オオタカをはじめ鷹類が鋭い目を光らせ、オープンスペースには愛嬌たっぷりのフクロウやミミズの仲間たち。店頭には澤田さんが家族の一員という色鮮やかなコンゴウインコ。もう20年もあるそうで、澤田さんが前を通るたびに「チヨウダイ！」と呼びかけます。「エサはさっきやっただろ！」と澤田さん。阿吽の呼吸が微笑ましく、何だか楽しくなるような空間です。鷹との初めての出会いは中学生の

時。夏休みに母親の実家がある三宅島へ行き、サシバを保護したことがきっかけでした。「これはもしかして、殿様が鷹狩に使った鷹ではないか？」と鷹狩に大変興味をもつようになりました（後に、今のサシバは鷹狩に使ったサシバではないことが分かりますが）。そうして「カッコイイ」鷹匠への憧れが膨らんできたのです。その夢は大人になってからもぶれることなく、江東区で営む家業の魚屋を



A オオタカ
B メンフクロウ
イギリスからやってきたC ナホリフクロウと、D スングコノハズクの赤ちゃん



左)見事に編まれた餌籠と、右)その裏側



澤田さんとタテジマウオクイフクロウ

フジペット TEL 042-344-3198

この道より我を生かす道なし 鷹匠への道を歩いて60年

継いだ後も、全国各地、各流派の鷹匠の門を叩き、技を求め、鷹を求めて鳥類の輸入業者を訪ね歩いていました。そうしているうちに、やがて行き着いた結果が「特定の流派に囚われない自由な発想で、いろいろな鳥で実践し、実験してみたい。一日中訓練に明け暮れるために、鳥屋になる」と、突然家業を弟に譲ることに。これには親兄弟が猛反対したそうです。

好きなことを仕事に

そこまでしても好きな道を貫き続けた澤田さん。「鷹は止まっている姿だけでも芸術的」という。ましてや自分より大きな獲物にも向かっていく鷹は、武士道に通じる魅力があるといえます。

当時はのどかだった小平で、居抜きでペットショップ店舗があり、店名もそのままに借り受けました。まだ畑が広がり、養豚場も養鶏場もあった小平でなら訓練もできると思ったからです。五日市周辺にもしょっちゅう出かけて鷹狩の訓練をしていたのです。しかし、「今は開発されてしまって、どこも調教できる場所がない。時代は変わった」と名人は寂しげな表情をみせます。

鷹とのつきあい60年。愛情を注ぎ、鷹の本能を理解し育て、訓練し、狩り

ができるようになるまで、まさに「好きじゃないとできない」世界。鷹が飛ぶ時、鷹匠が押し出すように勢いをつけ、人と鷹が呼吸を合わせる瞬間を、「人鷹一体」というそうです。熟練の技であればこそその醍醐味、日本の伝統文化です。

日本各地でのイベント参加、テレビ出演も数多く、かつての時代劇ドラマ「江戸の鷹」には1年にわたり撮影協力。オオタカとともに澤田さん自身も出演しました。他にも「水戸黄門」「暴れん坊将軍」など。「動物奇想天外」「志村どうぶつ園」などバラエティ番組でも活躍しています。

芸術的な手作り道具

鷹匠が使う道具は、鷹を据える時、鋭い爪から左拳を守るための皮の手袋（餌掛け）、籐で編んだエサを入れる籠（くちえかご）、鷹に鈴をつけるための鈴板など。これらを自分の手で作るのが鷹匠たる所以だそうです。

柔らかな鹿皮を手縫いして作った手袋、横には小さな手袋も。これはお孫さん用に作ったものとか。腰につけるエサ入れはボード一面に、澤田さん作のものが吊るしてあります。ひとつとして同じものはなく、籐で編んだその意匠とカーブの具合がすばらしい。裏側は服を保護するために印伝が縫い

付けられています。隠れたところに贅沢をする、江戸の粋が感じられます。澤田さんはこれら伝統工芸品の道具作りにおいても名人級です。

子どもたちへ生きた教材として

この日はその前々日にイギリスから届いた、生後1か月半のアナホリフクロウとスنداコノハズクが愛らしい姿を見せていました。売約済で1週間後には北海道へ送られるとか。顔がユーモラスなメンフクロウも何羽もいます。まん丸の目に見つめられると、こちらも頬が緩みます。フクロウたちは澤田さんにとって、言うことをよくきく、癒しそのものの鳥。訓練すれば全部の鳥を放し飼いにできるそうです。

土・日曜は子どもたちが見に来ます。これからやりたいことは、幼稚園や保育園、小学校で定休日の木曜を使ってボランティアをすること。「生きた教材として、子どもたちにふれ合ってほしい。訓練された鳥は決して人に危害を与えたりはしないですよ。ロボットなんかと違って温かみがあるでしょ」。毎年のようにヨーロッパのブリーダーを訪ね、交流しています。この夏もドイツへ行く予定。8月9、10日はさいたまスーパーアリーナで開催の「バード&スモールアニマルフェア」に参加します。